

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「名前を使って、自己しょうかい / 続けてみよう」 教材名「名前を使って、自己しょうかい / 続けてみよう」

2 単元の目標

文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（〔知識及び技能〕(1)力）

文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（B(1)力）

名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（B(1)力）	①名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する。この教材では、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

名前の文字から思い付く語を先に出し、その中から自分の性格や関心を伝える語を選ぶ。語の条件と紹介内容の両方を読み手と確かめ、文同士のつながりを直す。想定する難しさは、名前の音に合わせるだけで本人の紹介内容がなくなる。評価では、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けているかを、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○誰に何を伝えるかを確認、書く材料や最初の文を出す。 自分の名前の文字を手掛かりに、紹介したい特徴を表す語を集める。字の条件を満たすだけでなく意味が伝わる文を作り、読み合って言葉の選び方を見直す。読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(B(1)力)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「選んだ言葉は、自分のどんな面を伝えますか」 【めあて】名前を手掛かりに言葉を選び、自分の特徴が伝わる紹介を工夫する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 名前の音から自分らしい言葉を選びたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「選んだ言葉は、自分のどんな面を伝えますか」 自分の名前の文字を手掛かりに、紹介したい特徴を表す語を集める。字の条件を満たすだけでなく意味が伝わる文を作り、読み合って言葉の選び方を見直す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 名前の音から自分らしい言葉を選びたい。 ・ 言葉だけを合わせると自己紹介にならなかった。	名前の文字から思い付く語を先に出し、その中から自分の性格や関心を伝える語を選ぶ。語の条件と紹介内容の両方を読み手と確かめ、文同士のつながりを直す。 想定する難しさ：名前の音に合わせるだけで本人の紹介内容がなくなる。 評価では、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けているかを、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 言葉だけを合わせると自己紹介にならなかった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「選んだ言葉は、自分のどんな面を伝えますか」。中央は、名前の音を生かした自己紹介文と、表した自分の特徴に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

